

Media Information

令和2年4月23日 神戸新聞

ご入居者のご家族を繋ぐお手紙の取組みが掲載されました。

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、老人福祉施設では外部からの人の出入りを禁止するなど感染防止対策の徹底を図る。面会がかなわなくなった利用者と家族らの寂しさを紛らわせられればと、明石市の介護施設が入居者の近況を写真入りのはがきやホームページで伝え、互いの心の安寧を保つ取り組みに力を入れている。(長沢伸一)

面会中止の老人福祉施設

市内で10カ所以上の介護施設を運営する社会福祉法人「三幸福祉会」。感染すれば重症化しやすいとされる高齢者を守るため、各施設では食料運搬業者の立ち入りを玄關先までに制限。家族の面会も3月から中止した。

同法人によると、感染拡大が深刻化する以前から面会を自粛する家族もあり、「いつもと変わらないですが、一応電話での問い合わせも続いていた。入居者にも家族と会えず寂しがる様子がうかがえたという。

面会中止の決定に際し、募金不安を少しでも解消できればと提案したのが写真入りのはがきだった。同法人の施設では数年前から季節感を大切にする取り組みの一環で、利用者や手書きの年賀状や暑中見舞いを家族に送っていた。

はがきに写真 心の安らぎを

職員が日々の暮らしを写真



家族に向けた手紙を書く利用者
(三幸福祉会提供)

入居者の様子撮影 家族の返信楽しみに

ホームページでも日々の暮らしを写真で紹介。

に収めてはがきに印刷。余白に「元気に過ごしています。お元氣ですか」などと利用者の自筆メッセージを添えて家族宛てに送った。

はがきが届いた家族から電話などがかかってくることも。「息子から返事が来た。一緒に読んでほしい」と顔をほころばせたり、返信を見て涙ぐんだりする人、手紙をお守り代わりに肌身離さず大切にしている利用者もいるという。

同法人の田村智之さん(41)は「電話は会話が楽しめる分、話し終わった後の寂しさも募る。手紙に慣れ親しんだ世代でもあり、形として残り、読み返せる安心感もあるようだ」と話す。

家族の了解が得られた写真は法人のホームページで公開。従来、行事写真が中心だったが、面会を中止して以降は更新頻度も上げた。4月からは施設内に専用のタブレットを用意し、無料通信アプリLINE(ライン)を使った家族とのやり取りも試みた。

族のビデオ通話も試験的に始めた。

田村さんは「感染防止対策と日常を守ることを、そのバランスを保つことが大切だと思う。ストレスが原因で利用者体調不良に陥ってしまわないように心掛けた」と話した。

ビデオ通話も試験導入

